

有限会社 エフ・エフ・ヒライデ

～球根の力で咲かせた大輪のユリで、 花文化を育みたい～



澄子さん、賢司さん、美樹さん、孝司さん
侑飛くん、美守ちゃん、(代表)

<有限会社 エフ・エフ・ヒライデ>

弊社は栃木県宇都宮市でオリエンタルユリ、スカシ・LAユリの周年生産を行っています。切り花の生産は古く、現社長はこの地区での切り花生産の先駆けです。1972年のフリージアの生産から始まり、テッポウユリ等の生産を経て現在ではユリに特化した生産を行っています。

当園は宇都宮駅から東へ5kmほどのところにあり、夏の暑さは厳しく、冬も零下になるなど気候的な恩恵は特にありませんが、大消費地も近く、ロジスティクスの部分で有利な所です。



‘ビビアナ’

<経営概要>

生産規模は施設面積合計で約12,000㎡、栽培施設は一部を除き加温設備、遮光カーテン、細霧冷却装置を付帯し、それらはすべて温度、湿度、日射により複合制御しています。生産本数は年間30～40品種のユリを、年3～4作でおおよそ100万本(オリエンタル系87万本、LA系13万本)、季節を問わず完全周年で出荷しています。

出荷市場は東北、東京、静岡などで、市場出荷以外には卸業者との直接取引や、当園店頭での直接販売およびWeb通販で販売しています。店頭販売ではユリ以外にも、一般の生花店と同じような品を取りそろえ、フラワー装飾1級技能士による花束やアレンジメント、ブライダルブーケも承っています。



フラワー装飾1級技能士の奥様(店頭にて)

<栽培のこだわり>

ユリは球根の力に左右される部分が大きいため、その分土作りにもっとも重点をおきます。年に一度、粗大有機物として生の籾殻を投入し、80℃の温湯で消毒をして土壌の物理性を高めます。

基本施肥には有機肥料を用い、また併せて完熟堆肥を毎作投入、化成肥料は用いませぬ。害虫忌避のためには、100%天然成分であるニームを使用し、また現在は、敷藁の代わりに本県産の杉の皮を加工した『クリプトファーム』でベッドをマルチすることで雑草防除する取り組みを行っています。



温湯消毒の様子

植え付ける圃場を「ベッド」と呼びますが、球根が存分に力を発揮できる「ベッド」を作ってやるのが一番大きな仕事と思っています。

<生産方式の差別化>

経営的な大きな特徴は、生産方式の差別化です。「差別化により利益を確保する」とよく言われますが、それは品質や独自性で商品価値を高めることだけではなく、商品化および販売までのプロセスを差別化することも重要であると考えています。特に球根切り花であるユリは生産原価に占める種苗費コストの割合が高いため、出荷時期の切り花単価や栽培時期による生産コストを十分に吟味した上で生産計画を立てなければなりません。

完全周年出荷をとる当園では過去の栽培記録および生産原価や販売単価をすべてデータベース化することで徹底したコスト管理を行っています。また目に見えるコストだけでなく、作業性の改善なども常に追求し、高い利益を得られる経営を目指しています。

<MPSへの参加>

MPSへ参加する前は、環境配慮やマーケティングに有効な認証であると漠然と認識しておりました。しかし栃木での説明会で実際の話聞き、クラスター内での比較データや減農薬の効果など、当園の今後の経営に非常に有益であると考え参加に至りました。参加することで即効的な効果が得られるとは考えておりませんが、MPSへの取り組みを通じて、減農薬などの環境負荷低減、信頼の保証による販売促進などに繋がってゆけばと思っています。



出荷箱にもMPSロゴ

<文化を育むものとして>

花は喜びであり、慈しみであり、感謝であり、祝福であり、また日々のささやかな贅沢や安らぎでもあります。花を飾る、花を愛でることは人間にしかできない、まさに文化であり、ひいては花を育てることは文化を育てることと考えています。花＝文化を育み、世の中の豊かさに貢献してゆきたいと考えています。